

文藝春秋

有力医師が推薦する

がん手術の 名医107人

日本人に多い9領域のがん

頭頸部 肺 食道 胃 肝胆膵
大腸 乳 泌尿器 婦人科

外科手術の「根治性」「安全性」「QOL」を徹底的に追求
専門医が実力を高く評価する外科医107人を一挙に紹介する
医療ジャーナリスト・鳥集徹の書き下ろし最新リポート



本当に手術が巧い外科医インタビュー

肺がん・岡田守人（広島大学病院）

胃がん・福永哲（順天堂大学）

大腸がん・奥田準二（大阪医科大学病院）

乳がん・高橋将人（北海道がんセンター）ほか

特別
読物

なぜ外科医を選ばなければならないのか

婦人科がん 実力がある外科医

婦人科がんでは、得意とする治療法や分野が医師や病院によって異なることも多い。したがって、自分に合った治療の実績が豊富などころを選ぶのがいいだろう。どんな治療に取り組んでいるのか、またどんな考えで治療を進めているのか、三人の医師に聞いた。

婦人科がんでは、十四人がリストにあがった。

この中で、倉敷成人病センター院長の安藤正明医師、がん研有明病院婦人科医長の金尾祐之医師、富山県立中央病院産婦人科部長の舟本寛医師などが、婦人科がんの腹腔鏡手術に積極的に取り組んでいる。安藤医師は、この手術のパイオニアとして著名だ。

一方、新倉仁医師が婦人科長を務める東北大学病院は、センチネルリンパ節生検や自律神経温存手術の研究で知られている。また、鹿児島大学病院産科・婦人科長の小林裕明医師は、妊娠・出産の可能性を温存する広汎子宮頸部摘出術の執刀数が世界有数だ。

そのほか、卵巣がんの治療で知られるのが、岩手医

科大学附属病院病院長の杉山徹医師、東京医科大学病院産科・婦人科教授の寺内文敏医師、関西ろうさい病院産婦人科部長の伊藤公彦医師などだ。

もちろん、婦人科がんを専門とする医師は、子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がんのいずれについても、的確な治療をしてくれるはずだが、得意とする治療法や分野が病院や医師によって異なることも多い。したがって病院を選ぶ際には、ホームページなどで確認して、自分に合った治療の実績が豊富などころを選ぶのがいいだろう。

子宮体がんや子宮頸がんに関して、「手術の腕が確か」と多くの医師から推薦があったのが、三重大学医

推薦の多かった「腕のいい外科医」リスト・婦人科がん

名前・肩書き	病院名・住所・電話	特色
杉山 徹 病院長、産婦人科診療科部長	岩手医科大学附属病院 岩手県盛岡市内丸19-1 ☎019-651-5111	卵巣がんの研究と治療に定評がある。関連する診療科と連携して、最先端の薬物治療を実施。自身も肺がんを患った経験から患者中心の医療を心がける。
新倉 仁 婦人科長	東北大学病院 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 ☎022-717-7000	日本でも有数の年間200例を超える婦人科がん手術を実施。リンパ浮腫を予防するセンチネルリンパ節生検や排尿障害を防ぐ神経温存手術に取り組む。
加藤友康 婦人腫瘍科長	国立がん研究センター中央病院 東京都中央区築地5-1-1 ☎03-3542-2511	患者に優しく、がんには厳しい医療を心がける。放射線治療、抗がん剤専門、婦人科病理専門の各チームと協力して治療に当たる。
岡本愛光 婦人科診療部長・主任教授	東京慈恵会医科大学附属病院 東京都港区西新橋3-19-18 ☎03-3433-1111	「すべての分野で技量を高め、世界の女性を幸せにする」がモットー。科学的根拠に基づく最新治療を提供。臨床試験や新薬治験にも積極的に参加する。
寺内文敏 産科・婦人科教授	東京医科大学病院 東京都新宿区西新宿6-7-1 ☎03-3342-6111	進行および再発卵巣がんに対して残存病変のない完全摘出術を実施し、予後（治療後の経過）の改善を認めている。完全摘出率は世界トップレベル。
金尾祐之 婦人科医長	がん研有明病院 東京都江東区有明3-8-31 ☎03-3520-0111	悪性腫瘍に対しても積極的に腹腔鏡下手術を実施。これまで3000例以上を経験し、日本屈指の名手と評価されている。
平嶋泰之 婦人科部長	静岡県立静岡がんセンター 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 ☎055-989-5222	複数のスタッフで議論して治療方針を決定。患者の理解を得られるよう、説明にも時間をかける。手術成績を左右するリンパ節郭清の技術向上に取り組む。
舟本 寛 産婦人科部長	富山県立中央病院 富山県富山市西長江2-2-78 ☎076-424-1531	同県の婦人科がん治療の中核病院。舟本医師は腹腔鏡下手術の腕に定評があり、良性疾患だけでなく子宮体がんや子宮頸がんなど悪性腫瘍の一部にも、この手術を実施。
田畑 務 産科婦人科副科長	三重大学医学部附属病院 三重県津市江戸橋2-174 ☎059-232-1111	婦人科がん手術の腕に定評があり、手術書も執筆。その中でも難しい広汎子宮全摘を多くの婦人科医が着実・安全に行えるよう、手技の普及に努める。
伊藤公彦 産婦人科部長	関西ろうさい病院 兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69 ☎06-6416-1221	婦人科がん全般に精通するが、特に卵巣がんの専門家として知られ、臨床研究にも取り組む。患者に利益とリスクを説明し、納得の上でチーム医療を進める。
安藤正明 院長、内視鏡手術センター長	倉敷成人病センター 岡山県倉敷市白楽町250 ☎086-422-2111	婦人科がんの腹腔鏡下手術を確立したパイオニア。その技術を学ぼうと、多くの婦人科医が研修に訪れる。高難度手術にも取り組み、全国から患者が集まる。
齋藤俊章 婦人科部長	九州がんセンター 福岡県福岡市南区野多目3-1-1 ☎092-541-3231	患者、家族の気持ちを大事に診療することを心がける。発生部位、組織学的特徴、拡がりなど厳格な診断に基づき、質の高い医療の提供を目指す。
片淵秀隆 副病院長、婦人科・産科長	熊本大学医学部附属病院 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1 ☎096-344-2111	日本の婦人科がん治療をリードする一人で、治療の決定に最も重要な病理組織診断にも精通。自ら顕微鏡を見て、個々の症例にベストの方針を選択する。
小林裕明 産科婦人科長	鹿児島大学病院 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 ☎099-275-5111	子宮頸がんの妊孕性温存手術（広汎子宮頸部摘出術）は世界有数の執刀数。他にセンチネルリンパ節生検やロボット手術などが縮小手術のエキスパート。